

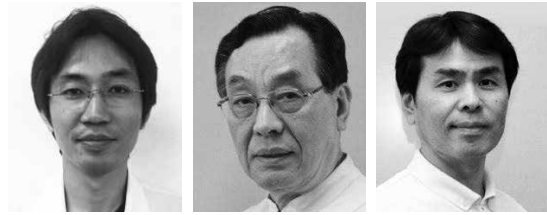
診 療 科

心臓血管外科・外科

スタッフ



大野 猛三 (病院長) 大川 洋平 (副院長・心臓血管センター長) 野村 文一 (主任診療部長) 横山 秀雄 (診療部長) 鈴木 正人 (主任医長) 森本 清貴 (医長) 藤田 きしゅう (医長)



大堀 俊介 (医長) 杉木 健司 (医師) 【外科】田中 久史 (診療部長)

I 特色

当科は成人心臓疾患ならびに大血管、末梢血管、下肢静脈瘤等、幅広く心臓血管外科手術に対応しています。特色としては低侵襲手術を可能な限り行うこととし、右開胸小切開心臓手術 (MICS: Minimally Invasive Cardiac Surgery)、心拍動下冠動脈バイパス術 (OPCAB: Off-Pump Coronary Artery Bypass)、大動脈ステントグラフトを多くの症例に行っております。また循環器内科と協働し、多職種のメンバーで構成されるハートチームによって、高リスクの重症大動脈弁狭窄症に対して、経カテーテル大動脈弁植え込み術 (TAVI: Transcatheter Aortic Valve Implantation) を施行しております。

II 診療内容

成人先天性心疾患、虚血性心疾患、弁膜症、胸部大動脈瘤、腹部大動脈瘤、末梢血管、下肢静脈瘤に対する外科治療が当科の診療内容です。また、常に緊急手術に対応しています。

III 活動報告 (症例実績等)

2017/1/1 ~ 2017/12/31

		件数
弁膜症弁置換術		83
弁膜症弁形成術		66
小切開開心術	MICS	14
大動脈弁置換術	AVR	65
冠動脈バイパス術	CABG	48
冠動脈バイパス術	OPCAB	49
胸部大動脈瘤	TAA	36
腹部大動脈瘤	AAA	16
胸部大動脈ステントグラフト	TEVAR	18
腹部大動脈ステントグラフト	EVAR	31
胸部その他		19
下肢静脈瘤血管内焼灼術	VARIX	29
末梢血管その他		97

1. はじめに

2017年、当院の心臓血管外科は9人、外科1人で始まりました。実際に心臓血管外科手術に携わるのは後者の6人です。三が日は緊急手術も無く平和なお正月で、5日の定期手術から今年は始まりました。

2017年はメンバーの変更は無く、安定した人数で臨床を行うことができました。主な手術に携わる医師は6人であり、一人が外来に取られてしまっても、並列で手術が可能でした。緊急手術や学会等にも柔軟に対応できる体制を維持できました。

また、2016年10月15日に新しく北海道大野記念病院として札幌市西区宮の沢に新たに開院し、無事1年を経過することができました。多くの科も増え、医師数も増えました。この利点を生かし、今まで以上に地域医療に貢献をしていきたいと考えております。

2017年は新病院となり一年目ということもあり、特に大きなイベントや事故も無く日々の手術を粛々とこなして参りました。また、当院の特長である右開胸小切開心臓手術 (MICS) は14例 (僧帽弁形成術9例、心房中隔欠損孔閉鎖術3例、大動脈弁置換術2例) に実施しました。症例数はまだまだ少なく、今後の課題となっております。また、更なる低侵襲心臓手術を目指し、2017年12月1日にはロボット心臓手術実施施設の認定を取得しました。今後は da Vinci を用いた心臓手術を行っていききたいと思います。

2. 2017年手術概要

手術総数は452 (昨年より50例減少)、人工心肺症例は154例 (昨年より5例減少)、OPCAB49例 (昨年よりも4例増加) でした。心臓血管外科症例として257例、昨年より21例の増加ですが、TAVIを差し引くと221例と昨年より15例減少となります。腹部以下動脈手術は85例 (昨年より9例増加)、静脈瘤手術55例 (昨年よりも1例増加)、その他74例でした。昨年とほぼ同程度の手術件数ですが、これに甘んじる事無く、今後も謙虚に仕事をして、手術件数を増やしていくことが今後の目標となっております。そのためには症例一つ一つを大切に、患者にとって一番大切な事は何かを常に考えて、正しい医療を行っていききたいと思います。

3. 先天性心疾患

心房中隔欠損孔閉鎖術が10例と例年に比べ多い年でした。うち3例はMICSで行いました。また冠動脈起始異常の手術が1例ありました。

4. 後天性心疾患

- (1) 弁膜症 胸部大動脈瘤を併施しない弁膜症手術は88例でした (昨年より19例減少)。機械弁7 (大動脈弁3、僧帽弁4)、生体弁57 (大動脈弁46、僧帽弁11)、弁形成56例 (僧帽弁31、三尖弁25) でした。CABG併施数は30例でした。僧帽弁逆流に関しては形成術を可能な限り行うことにしています。またMICSによる弁膜症手術を11例 (僧帽弁形成9例、大動脈弁置換2例) に施行しております。また経カテーテル大動脈弁植え込み術 (TAVI) を36例に施行しております。
- (2) 虚血性心疾患 単独冠動脈バイパス術は61例 (昨年より11例増加) で、うちOPCABは49例でした。心筋梗塞合併症に対する手術は左室形成術を1例に施行しました。
- (3) 不整脈に対する手術 Maze手術を10例 (昨年より10例減少)、肺静脈隔離術を22例に行いました。
- (4) その他 心臓腫瘍に対して2例の切除術を行っています。HOCMに対する心筋切除2例、その他が2例でした。

5. 胸部大動脈瘤 (54例、昨年より18例減少)

- (1) 解離性 (20例) 急性期のStanford Type A に対して緊急で12例 (上行大動脈3例、上行+弓部9例) の手術を行いました。また急性期のType B に対して2例ステントグラフトを施行しております。慢性期のType B に対しステントグラフトを5例行っています。
- (2) 非解離性 (34例) 非破裂性は上行大動脈10例、大動脈基部置換術5例、上行+弓部7例、ステントグラフト11例でした。

6. 腹部大動脈以下動脈手術 (85例、昨年より9例増加)

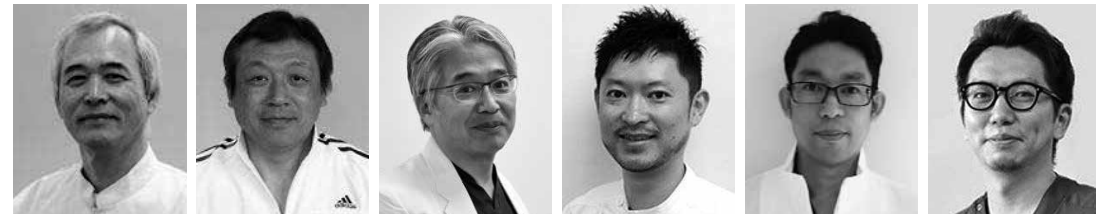
腹部大動脈瘤に対する手術は47例、うち人工血管置換術16例、ステントグラフト31例でした。その他38例の動脈手術がありました。

7. 静脈 (55件、昨年より1例増加)

下肢静脈瘤手術が55例でした。2015年よりablationを導入し、半数近くに施行しております。

脳神経外科

スタッフ



齋藤 孝次 (理事長) 入江 伸介 (福島孝徳脳神経・頭蓋底センター長) 片岡 丈人 (主任診療部長・脳血管内治療センター長) 寺川 雄三 (医長) 早瀬 仁志 (医長) 高平 一樹 (医師)

I 特色

脳神経外科学会指導医、専門医、脳神経血管内治療学会指導員、専門医が在籍し、各分野の先進的治療の実施に取り組んでいます。医療機器も、術中MRI (3T)、術中CTが可能な脳専用パイプラインDSA、高性能手術用顕微鏡を含む最新の手術室など、最新機器が充実しています。

II 診療内容

脳血管内治療による低侵襲治療 (脳動脈瘤塞栓術、血管再開通療法、頸動脈ステントなど)
 キーホールサージェリーに代表される低侵襲脳神経外科手術
 髄膜腫等に対する頭蓋底手術
 悪性脳腫瘍に対する術中MRIを用いた手術および、化学療法、放射線治療
 本態性振戦に対するMRガイド下FUS(集束超音波治療)
 脳卒中ケアユニットによる急性期脳卒中治療

III 活動報告 (症例実績等)

2017/1/1 ~ 2017/12/31

脳外<手術>

	件数
頭蓋内腫瘍摘出術	18
慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術	16
脳動脈瘤開頭クリッピング (未破裂)	10
頭蓋内血腫除去術	9
水頭症手術	7
頭蓋内微小血管減圧術	6
動脈形成術、吻合術	4
頭蓋骨形成手術	4
内頸動脈血栓内膜摘出術	4
経鼻的下垂体腫瘍摘出術	3
定位脳腫瘍生検術	3
穿頭脳室ドレナージ術	2
減圧開頭術	2
その他	11

脳外<血管内治療>

	件数
脳動脈瘤塞栓術	29
経皮的脳血栓回収術	11
経皮的頸動脈ステント留置術	8
経皮的血管形成術	2
その他	3

※上記手術のうち全麻件数は38件です。

脳外<その他治療>

	件数
MRガイド下集束超音波治療	2

消化器外科

スタッフ



川崎 仁司 (主任) 木村 仁 (部長) 久慈 麻里子 (医長)

I 特色

消化器外科は2016年10月の北海道大野記念病院開院とともに新設された診療科です。旧大野病院では消化器内科はありましたが、消化器外科がなく、手術などの外科処置が必要な患者様には転院等ご迷惑をおかけしておりました。今後は当院で診断から治療まで対応可能となりました。

専門は消化器（食道・胃・小腸・大腸・肝臓・胆嚢・膵臓）およびヘルニアの診断および治療です。近年、がんによる死亡が死因の一位となっており、全がん死亡者に占める消化器癌の割合は男女とも約6割を占めています。したがって、専門分野の中でも特に消化器がんの診断および治療に注力を注いでおります。

がん治療においては、根治性とともに機能温存が求められています。当科でも、根治性を重視する一方、機能温存を目指した手術を行っています。例えば、胃癌に対する自律神経温存手術、幽門保存胃切除術、直腸癌に対する肛門括約筋温存手術などです。また、患者さんの回復が早いと考えられている鏡視下手術（胆石症、食道癌、胃癌、大腸癌）も積極的に進めています。一方で進行癌に対しては根治性を求め、拡大手術や放射線・抗癌剤を併用した集学的治療を行っています。当院には最新の治療機器を備えた“札幌高機能放射線治療センター”があり、放射線治療科との連携を密にして治療に当たっています。

人口の高齢化にともない、心疾患・脳疾患などを合併したがん患者様が増えておりますが、新病院以前から専門分野として治療を行っていた循環器内科・心臓血管外科および新設された脳神経外科と密に連絡を取りながら、きめ細やかな周術期の管理をおこなっており、合併症の低減に努めております。年齢を理由に手術を躊躇する患者様が増えておりますが、実年齢で手術の可否を決めることはなく、患者様の状態を評価して可能な限り安全で効果の高い治療法の検討を行っておりますので、治療方針に関して疑問や不安がある場合には遠慮なくご相談して頂ければと思います。

当科スタッフ一同は患者様の立場にたち、患者様のご意見に耳を傾けながら、満足していただけるよう、より質の高い医療・看護を目指して努力しております。また病気のこと、健康のことなどについて気軽に相談して頂きたいと思っております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

II 診療内容

消化器（食道・胃・小腸・大腸・肝臓・胆嚢・膵臓）およびヘルニアの診断および治療
専門分野の中でも特に消化器がんの診断および治療に注力を注いでおります。

III 活動報告（症例実績等）

2017/1/1 ~ 2017/12/31

手術

		件数	
食道	食道切除	1	
胃・十二指腸	幽門側胃切除	6	
	噴門側胃切除	1	
	胃全摘	1	
	その他	5	胃潰瘍1、十二指腸潰瘍3、胃・十二指腸穿孔1
胆嚢	腹腔鏡下胆嚢摘出術	18	
	胆嚢摘出術	8	
	胆嚢悪性腫瘍手術	1	
肝臓	肝切除	2	肝細胞癌1、転移性肝腫瘍1
	肝のう胞開窓術	1	
大腸・小腸	腹腔鏡下結腸切除術	8	
	腹腔鏡下直腸切除術	5	
	開腹下結腸切除術	9	
	開腹下直腸切除術	1	
	虫垂切除術	3	
	腹腔鏡下虫垂切除術	1	
	イレウス	4	
	小腸切除術	3	
	その他	6	人工肛門閉鎖2、人工肛門造設1
肛門	痔核	1	
ヘルニア	鼠径ヘルニア	17	
	大腿ヘルニア	3	
	腹壁癒痕ヘルニア	1	
	内視鏡下胃瘻造設術	1	
その他		9	腹膜透析チューブ挿入3、腹膜透析チューブ抜去1、婦人科腫瘍1、デンバーシャント1、気管切開1、皮下腫瘍切除1、リンパ節生検1
合計		116	

整形外科

スタッフ

金子 高久
(診療部長・脊損センター長)岡崎 俊一郎
(医長)

I 特色

高齢化社会を迎え、腰痛、骨折など整形疾患の治療はさらに重要性を増しています。当科の特徴として、心臓の病気や糖尿病、血液透析など、整形外科以外の疾患を持った方々が多く来診されることが挙げられます。これらの方々が安心して手術治療を受けられるよう、担当科の先生方と連携しながら診療を進めています。

首や腰などを扱う脊椎・脊髄外科では、日本に数台しかない術中移動型CTであるO-armとナビゲーションシステムを組み合わせ、最大限安全に配慮した手術を行うことを心がけています。さらに最先端技術の低侵襲腰椎前方椎体間固定術（OLIF、XLIF）により、難易度の高いとされる脊椎変形（側弯症、後弯症）や脊椎外傷、脊椎感染症で、より低侵襲で安全に治療することを目指します。また、脊損センターを設立し、再生医療を駆使した最先端医療を提供し、救命・救急治療から慢性期のリハビリテーション・社会復帰に至る高度かつ包括的な脊髄損傷医療の普及に努めます。

股関節や膝関節を扱う関節外科では、人工関節置換術に必須な無菌手術室を完備しています。股関節の変形性股関節症や特発性大腿骨頭壊死症、関節リウマチなどの疾患に対する人工股関節置換術では、筋肉を極力痛めない前側方侵入法を用い、術後の疼痛の軽減や脱臼の危険性を低下させ、より低侵襲で安全に治療することを目指しています。使用する人工関節は、患者様の骨質や骨の形態により骨温存型のセメントレスタイプを使い分けています。膝関節の変形性膝関節症や関節リウマチなどの疾患に対する膝関節置換術では、ナビゲーションシステムの併用や、患者様それぞれの術前の状態を考慮したハイブリッドタイプの人工関節を選択しています。

また、いずれの分野においても、術後早期の社会復帰に向けて、リハビリテーション部門との連携を密にしています。

II 診療内容

治療対象疾患

脊柱変形（側弯症・後弯症-「腰曲がり」）
腰部椎管狭窄症、椎間板ヘルニア
変性すべり症、腰椎分離・すべり症
胸腰椎椎体骨折（骨粗鬆症、外傷）
頸椎椎間板ヘルニア、変形性頸椎症
頸椎後縦靭帯骨化症、
頸椎損傷

得意とする治療

脊柱変形（側弯症・後弯症）に対する矯正手術
腰部椎管狭窄症、椎間板ヘルニアに対する除圧術
腰椎変性すべり症、分離・すべり症に対する除圧固定術
頸椎症性脊髄症、頸椎後十靭帯骨化症に対する椎弓形成術
頸椎椎間板ヘルニアに対する前方除圧固定術
頸椎損傷に対する前、後方固定術

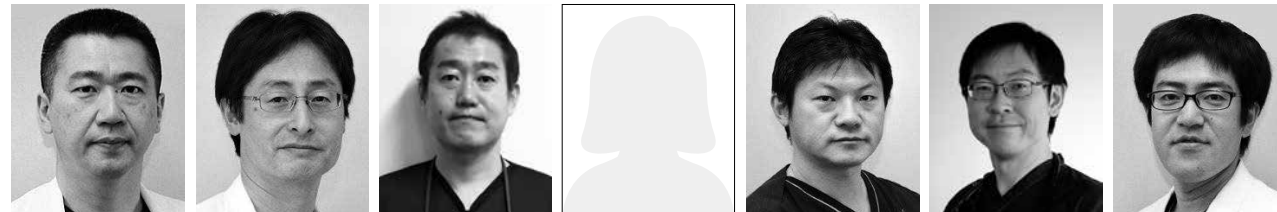
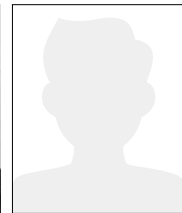
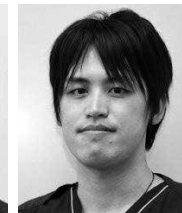
III 活動報告（症例実績等）

2017/1/1 ~ 2017/12/31

	件数
脊髄・脊椎	
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術	82
経皮的椎体形成術	10
椎間板摘出術	10
脊髄・脊椎腫瘍摘出術	4
その他	30
整形	
人工関節置換術	17
人工骨頭挿入術	13
骨折観血的手術（四肢等）	46
骨内異物・プレート除去術（四肢等）	3
腱鞘切開術	5
その他	32

循環器内科

スタッフ

山下 武廣
(副院長・心臓血管センター長)長島 雅人
(診療部長)大嶋 孝則
(診療部長)鈴木 三和子
(主任医長)岩切 直樹
(主任医長)三山 博史
(主任医長)長堀 亘
(医長)小野 康則
(医長)前野 大志
(医長)三浦 史郎
(医師)今井 斎博
(医師)呉林 英悟
(医師)中川 俊昭
(医師)

I 特色

心臓血管外科との30年にわたる有機的な協働により確立した循環器疾患診療チームは、急性心筋梗塞や急性大動脈解離、急性心不全などの心血管救急疾患に365日24時間体制で対応します。低侵襲治療として現在も注目をされている経カテーテル大動脈弁植え込み術(TAVI)を心臓診療チーム(Heart Team)の重点領域として今後も推進致します。2018年中に経皮的心房中隔欠損閉鎖術・経皮的動脈管開存閉鎖術の開始を目指し、近い将来可能となる経皮的僧帽弁接合不全修復術、経皮的左心耳閉鎖術等、経皮的構造的な心疾患(Structural Heart Disease)治療にも積極的に取り組んでまいります。北海道大学病院で行われた心移植症例の外来リハビリ協力施設として機能できる準備を進めています。

II 診療内容

循環器内科は心血管疾患を内科的に診断・治療する診療科です。狭心症や心筋梗塞などの虚血性心疾患や弁膜症、心筋症、心不全、各種不整脈、高血圧、大動脈疾患、末梢血管疾患など、多くの心血管疾患を担当します。従来から当科の特長としているカテーテルインターベンション治療はそれぞれのものが低侵襲を目的として発展してきた治療法であります。器具の細径化、アプローチ部位の選定、止血デバイスの積極使用、さらには新規認証器具の早期導入を通じてさらなる低侵襲化とハイレベル化を目指します。施設認定されているロータブレードとレーザー冠動脈形成術は、引き続き他施設からの治療依頼に積極対応致します。

心臓電気生理学的検査(EPS)・経カテーテル心筋焼灼術(アブレーション)を駆使して、不整脈の低侵襲な根治術を実現しています。

心不全診療サポートチームの寄与のもと、薬物治療の最適化・包括的心血管リハビリテーションの充実とともに、植え込み型治療デバイスを含めた包括的治療により心不全診療における急性期・長期予後改善を実現しています。最先端の心血管画像診断法(心臓PET、心臓MRI)を駆使することで、より確実に詳細な診断と治療法選択が可能となりました。

III 活動報告(症例実績等)

2017/1/1 ~ 2017/12/31

		件数
冠動脈カテーテル検査	CAG	766
冠動脈カテーテル検査(緊急)		43
電気生理学的検査	EPS	170
経皮的冠動脈形成術	PTCA,PCI	404
経皮的冠動脈形成術(緊急)		73
経皮的カテーテル心筋焼灼術	ABL	167
経皮的末梢血管形成術	PPI	46
経皮的腎血管形成術	PTRA	9
経カテーテル大動脈弁植え込み術	TAVI	36
その他カテーテル治療		25
ペースメーカー植え込み術(新規)	PMI	69
ペースメーカー植え込み術(交換)		19
植え込み型除細動器植え込み術(新規)	ICD	6
植え込み型除細動器植え込み術(交換)		
両室ペーシング機能付き植え込み型除細動器	CRTD	4
心臓再同期ペースメーカー治療	CRTP	4

呼吸器内科

スタッフ



三品 壽雄
(医師)

I 特色

当科は高度急性期医療を担う病院の呼吸器内科として、主に肺癌の診断・治療および呼吸器疾患の救急医療を行います。

肺癌の診断面では、PET-CT、MRI、超音波ガイド下気管支鏡等を用いた高いレベルの診断を目指し、治療面では手術、化学療法、免疫療法とトモセラピー、陽子線治療等の放射線治療を駆使した集学的治療を行います。

PETと放射線治療装置を備えた病院は札幌市内でも数えるほどであり、特に体に優しいトモセラピー、陽子線といった最新の放射線治療は今後ますます必要性が高まっていくことから、当科ではほかの病院にはできないようなからだに優しい「切らずに治す」治療を行うことが可能です。

放射線治療は早期肺癌が良い適応であることから、呼吸器内科医も参加したドックでの低線量 CT 検査を積極的に行い、早期の肺癌症例を増やしていくことも大変重要となってきます。

II 診療内容

III 活動報告（症例実績等）

消化器内科

スタッフ



後藤 賢一郎
(主任診療部長・消化器センター長)

高柳 俊明
(診療部長)

泉里 友文
(医長)

I 特色

当科では、食道・胃・十二指腸・小腸・大腸までの消化管と、肝臓・胆嚢・胆管・膵臓といった腹部臓器に生じる疾患を対象としています。

悪性疾患、消化管出血、摂食障害など高齢化が原因と思われる疾患が増えてきておりそれら疾患を中心に診断・治療を行っております。また日常でよくみられる腹痛、下痢などに対するプライマリケアにも力を入れ地域医療に貢献していきたいと考えております。

II 診療内容

2017年 入院患者 合計 360名

以下は主な入院病名

大腸ポリープ	139名
腸閉塞	21名
虚血性腸炎	19名
急性腸炎	19名
肝臓がん	15名
胃がん	13名
大腸がん	11名
大腸憩室炎	11名

III 活動報告 (症例実績等)

上部消化管内視鏡的検査	3,887件(うち、健診 2,797件)
下部消化管内視鏡検査	576件
内視鏡的胃粘膜切除術 (EMR)	139件
内視鏡的食道静脈瘤結紮術 (EVL)	3件
内視鏡的止血術	12件
肝炎の経口内服薬治療	35件
肝動脈塞栓術 (CTACE)	4件
PEG 造設	12件
PEG 交換	48件

糖尿病内科

スタッフ



入宇田 能弥
(医長)

I 特色

日本では6人に1人が糖尿病、もしくはその疑いがある状況です。

当科では、病態や生活状況を確認したうえで、糖尿病合併症の発症・進行を防げるよう、生活習慣の改善・投薬治療を相談して、血糖をコントロールしていきます。

治療にも関わらず合併症が進行する、初診時で合併症が進行している、といった症例も残念ながらあります。その場合は循環器内科、心臓血管外科、脳神経外科、腎臓内科や近隣医療機関との連携により、合併症治療への道筋も相談していきます。

高度急性期病院である当院では手術症例の増加が予測され、その中には血糖コントロールが必要な方もでてくると考えられます。術前の合併症評価や周術期の血糖コントロールについて各科との十分な連携を行い、安全な手術が行えるよう協力していきます。

II 診療内容

III 活動報告（症例実績等）

神経内科

スタッフ



柏木 基
(診療部長)

I 特色

神経内科では、脳と脊髄から成る中枢神経と、そこから出入りする末梢神経の疾患、ならびに骨格筋や平滑筋等を支配する自律神経の疾患を対象としています。Neurological emergencyである髄膜炎、脳炎などの神経感染症や頭痛などの機能性疾患、認知症性疾患や筋萎縮性側索硬化症、多系統萎縮症、パーキンソン病などの神経変性疾患、ギランバレー症候群や慢性脱髄性多発根神経炎（CIDP）や多発性硬化症などの神経免疫疾患に対し、神経学的診察、画像検査、誘発筋電図検査、髄液検査等を駆使し診断、治療、リハビリおよびその後のケアに取り組んでおります。

II 診療内容

現在神経内科医は1名で診療を行っており、午前は当院サテライトクリニックである、札幌西孝仁会クリニックで、午後は当院にて月曜日～木曜日に外来を行なっています。

当科ではパーキンソン病や筋萎縮性側索硬化症、多系統萎縮症などの神経変性疾患の診断・治療に取り組んでいるほか、もの忘れ外来を展開し、近年増加傾向があるアルツハイマー型認知症やレビー小体型認知症をはじめとする認知症性疾患の早期発見、早期治療に取り組んでいます。

入院ではパーキンソン病や多系統萎縮症などの神経変性疾患の内服調整やリハビリテーションを行ないADL拡大をはかるほか、髄膜炎・脳炎などの治療を積極的に行なっています。また、他科と連携し、神経疾患のある患者様で周術期の方の、神経内科的管理やフォローを積極的に行なっています。認知症サポート医として、社会医療法人孝仁会の関連のある羅臼町からの依頼により、羅臼町初期集中支援チームにかかわりを持ち、地域事業への参画も行なっています。

III 活動報告（症例実績等）

2017.1.1～12.31 退院患者（主たる症例のみ）

病名	症例数
パーキンソン病 / パーキンソン症候群	7
てんかん	3
多系統萎縮症	3
リウマチ性多発筋痛症	2
横断性脊髄症	2
多発性硬化症	2

2017.1.1～12.31 外来実患者（主たる症例のみ）

病名	症例数
認知症	72
末梢神経障害	25
パーキンソン病	18
本態性振戦	12
てんかん	11
多発性神経炎	5

婦人科

スタッフ



寒河江 悟
(主任診療部長・婦人科がんセンター長)

I 特色

当院婦人科ではがん検診としての積極的な初回 HPV DNA 検査、細胞診・HPV 併用検診、細胞診（液状検体採取）の実施ならびにコルポ診による精密検診などが中心的取り組みであります。あくまで円錐切除という最小手術で妊孕能の温存をはかる治療が可能な症例の発見に努め、「生死に関わる子宮頸癌浸潤がんを近隣地域から撲滅しましょう」という心構えで検診を行っています。また内膜癌検診には超音波、内膜細胞診用ブラシならびに Pipet-curet という組織採取器具を導入し組織診での診断を行っています。

また最新のコルポスコープ診断装置、高性能な超音波診断装置、320 列 CT や 3.0T-MRI の導入により、検査後ただちに画像を転送し患者様に説明を行うシステムを採用し、容易に詳しい説明が可能です。このことにより、手術の必要性の可否、悪性度診断などを行い、経過観察や術前診断の精度を高めるべく努力を行っています。2016 年 10 月開院以来、上記機器診断に基づいた精度の高い所見の把握を下に、開腹手術を極力避け、腔式手術や腹腔鏡手術を積極的に行ってまいります。2018 年婦人科疾患へのロボット手術の保険適応も決まり、徹底的な低侵襲手術を心がけ、より安心安全な手術を目指しています。国内外の最新の臨床試験の成績などの知識を駆使した抗癌剤治療や免疫療法に加えて、副作用を軽減可能かつより効果が高い先進的な放射線治療を行い、新規がん症例のみならず再発症例の予後向上につとめ、さらには患者様の QOL を最大限考慮した医療を目指してまいります。

II 診療内容

札幌西孝仁会クリニック

外来部門 検診として HPV 検査を最初に行い、陰性例には 2-3 年後の再検を指示しています。陽性者は直ちに精密検査を行い、次回検査の日程を決めつつ嚴重に経過観察を行っています。CIN2-3 以上の診断時には円錐切除を行います。患者様の利便性を考慮し、検査センターとの共同で HPV 検査の自己採取の試みも行っております。さらには超音波検査、ならびに 3.0T-MRI、さらに高速 CT 検査を駆使して正確な診断を目指して、手術適応を決めています。2018 年 4 月より札幌市中央区大通西 1 丁目ル・トロワ 6 階 Vogue にて週 1 回外来を行います。

当院外来化学療法室

術後の補助化学療法として Taxol/CBDCA 療法、Avastin 単独投与などを行っています。さらには化学療法中の患者様の経過観察として採血、諸検査も行ってまいります。遺伝子検査として liquid biopsy も導入しつつあります。

当院 6 階東病棟

入院部門 良性腫瘍（子宮筋腫、卵巣腫瘍など）、子宮頸がん円錐切除術、子宮頸癌手術、子宮体癌手術、卵巣癌手術、術後の補助化学療法などを行っています。がん症例の摘出物は、凍結ブロックあるいはパラフィン切片からの遺伝子異常の検出も積極的に行っており、今後の治療の個別化を目指してまいります。

III 活動報告（症例実績等）

手術症例

良性腫瘍 43 例

子宮筋腫・腺筋症 腹式 24 例 腹腔鏡下 7 例

筋腫核出 腔式 1 例 腹式 1 例

卵巣腫瘍 腹式 2 例 腹腔鏡下 5 例

子宮脱・膀胱瘤 2 例 子宮鏡手術 1 例

悪性腫瘍 33 例

子宮頸癌 0 期 円錐切除 14 例 子宮全摘術 2 例 浸潤がん 悪性子宮腫瘍手術 1 例

子宮体癌 悪性子宮腫瘍手術 6 例 進行・再発 3 例

卵巣癌 境界悪性 1 例 RRSO 1 例 悪性付属器腫瘍手術 3 例 進行・再発 2 例

化学療法症例 11 例

子宮頸癌 TCB 1 例

子宮体癌 TC 3 例

卵巣癌 TCB 3 例（うち 1 例は免疫療法） 2018.1 現在初回治療例は全例無病生存

再発症例 子宮体癌 3 例 1 例（免疫療法中） 2 例死亡（原病死 免疫療法・RT 後）

腹膜癌 1 例死亡（免疫療法）

がん疼痛緩和ケア 1 例 死亡症例 1 例

その他

寒河江 悟

JGOG 婦人科悪性腫瘍研究機構 功労会員 2016.12

Gynecologic Cancer Intergroup (GCI) 功労賞 2017.5 子宮頸癌委員会委員長 2012-2016

日本臨床細胞学会 功労会員 2017.5、

GCI 会議出席 JGOG GCI 委員会委員長 2016.6 ASCO シカゴ、2016.11 ESGO ウィーン

日本婦人科がん会議 新潟 世話人 2016.6

北海道産婦人科低侵襲手術研究会 札幌 顧問 2016.11

日本婦人科腫瘍学会 名誉会員 2018.7

耳鼻咽喉科・頭頸部外科

スタッフ



今野 信宏
(主任医長)

I 特色

外来担当：

耳鼻咽喉科・頭頸部外科は当初2名体制で診療していましたが、現在は1名となっております。体制の変更に伴い、サテライトクリニックである、札幌西孝仁会クリニックでの外来診療だけであったものを、北海道大野記念病院でも外来診療を6月から開始しております。現在は月曜日、金曜日の午後を北海道大野記念病院で、水曜日の午前中を札幌西孝仁会クリニックで診療を行っております。火曜日・木曜日については手術・検査日としております。

当科は一般耳鼻科の診療はもちろん対応可能ですが、頭頸部腫瘍、特に「頭頸部がん」に力を入れております（甲状腺癌含む）。前述の放射線治療はもちろんですが、化学療法についても当科で対応しております。手術についても今まで行っていた遊離再建手術はもちろんですが、低侵襲治療、QOLの向上を目指した集学的治療を行っております。その他の手術については、良性腫瘍や鼻科手術、アレルギーの舌下免疫療法も行っております。特に頸部腫瘍については傷の目立たない皮膚切開、小切開による手術を行っております。小児（学童期未満）に対しては病院として入院の体制が整備されておらず、対応はできないのが現状です。

地域連携：

当初、耳鼻咽喉科・頭頸部外科については新規開設についてのアナウンスが不十分で、地域住民の皆様には情報が不十分でありましたが、現在は徐々に浸透しつつあります。他院からのご紹介につきましては、患者様に直接ご紹介状を持参していただく場合や、医療連携相談室を経由して予約していただく事が多いですが、緊急を要するような場合には、直接お電話でご連絡いただければと思います。

II 診療内容

頭頸部癌における低侵襲治療、機能温存術、再建術

(ナビゲーション・O-Arm, ICG, 3D内視鏡等使用 ELPS TOVS etc.)

頸部良性腫瘍に対する傷の目立たない皮膚切開による摘出術・小切開手術

(甲状腺・耳下腺・顎下腺・頸部嚢胞性疾患 etc.)

術中神経モニターを用いた神経温存

気管切開術

鼻・副鼻腔疾患における内視鏡手術 (ナビゲーション、O-Arm、3D内視鏡等使用)

(好酸性副鼻腔炎等の難治性副鼻腔炎、腫瘍性病変)

神経耳科疾患に対する入院・外来治療

突発性難聴 (7~8日入院 高圧酸素療法併用)

顔面神経麻痺 (7~8日入院 ステロイド・抗ウイルス薬)

めまい・急性感音性難聴

嚥下障害に対する評価・治療

ビデオ内視鏡検査 (VE) 嚥下造影検査 (VF)

特殊機器・診療支援機器

純音聴力検査・インピーダンスオージオメータ・自記オージオメータ、ABR, ENoG, CCD フレンチェル内視鏡・記録装置、重心動揺計、外来用顕微鏡、手術用顕微鏡、電子ファイバースコープ3台 (NBI ENT-VH2 本、ENT-VT2 1 本) 携帯用軟性内視鏡、副鼻腔手術用内視鏡、神経内視鏡、3D内視鏡、先端湾曲ビデオスコープ (Endoeye flex, Olympus)、開口器付き佐藤式湾曲喉頭鏡、FK-WO リトラクター、ビデオラリンゴシステム、ショー加熱メス、ハーモニックフォーカス、マイクロ波外科手術用エナジーデバイス、術中神経モニター装置

III 活動報告 (症例実績等)

手術症例

2017/1 ~ 2017/12

	件数
内視鏡下鼻・副鼻腔手術	18
アデノイド・口蓋扁桃手術	2
耳下腺悪性腫瘍手術	1
顎下腺 (腫瘍) 摘出術	3
副咽頭間隙腫瘍摘出術	1
気管切開術	3
喉頭腫瘍摘出術	1
甲状腺良性腫瘍摘出術	1
甲状腺悪性腫瘍摘出術	2
喉頭悪性腫瘍手術 (全摘)	1
咽頭悪性腫瘍手術	5
頸部郭清術	4
頸部リンパ節生検	2
CV ポート増設	2
その他	3

全身化学療法

2017/1 ~ 2017/12

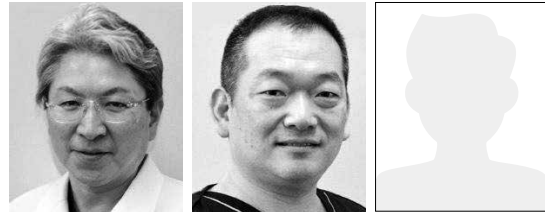
耳鼻頭頸科	94
CBDCA+5-FU+Cmab 療法	2
Cetuximab+RT 療法	6
Cetuximab 単独療法	10
FP+Cetuximab 療法	2
Nivolumab 単独療法	22
PTX+CBDCA (2.5) +Cmab 療法	5
TPF (DTX+CDDP+5-FU) 療法	6
weekly PTX+Cetuximab 療法	41

2017年の診療科別内服処方患者数・日数

診療科 / 成分名	総処方患者数	総処方日数
耳鼻咽喉科・頭頸部外科		
テガフル・ギメラシル・オテラシル	5	511

麻酔科

スタッフ



原澤 克己
(主任診療部長)

坂本 浩
(診療部長)

枝窪 俊輔
(医師)

I 特色

- ① 御高齢の患者様が多い（70才以上の方が63.4%）。
- ② 循環器系の手術（外科と内科を併せて）が半数近くを占める。
- ③ 循環器系の疾患（虚血性心疾患、弁膜症など）で通院歴のある方が多い。

II 診療内容

1. 手術時の麻酔管理
2. 急性期ペインコントロール（入院患者様向け）
3. 集中治療サービス

III 活動報告（症例実績等）

症例実績

麻酔科管理手術症例数 936件

（2017年1月1日から12月31日までの1年間）

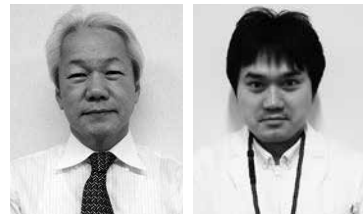
内、科別件数（件）

心臓血管外科 （末梢血管外科を含む）	336
整形外科	201
脳神経外科 （血管内手術を含む）	115
循環器内科 （アブレーションなど）	105
消化器外科	98
婦人科	65
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	31

※経カテーテル大動脈弁植え込み術（TAVI）など複数の診療科が関与している場合はそれぞれの科の件数に加えてあります

放射線治療科

スタッフ



岸 和史 (副院長・札幌高機能放射線治療センター長) 鳥居 暁 (医師)

I 特色

粒子線治療のみならず高精度高エネルギー放射線治療、および放射線+免疫学的治療を含むバランスのとれた総合的で最先端のがん治療を高機能放射線治療として位置づけ、その提供を行っています。

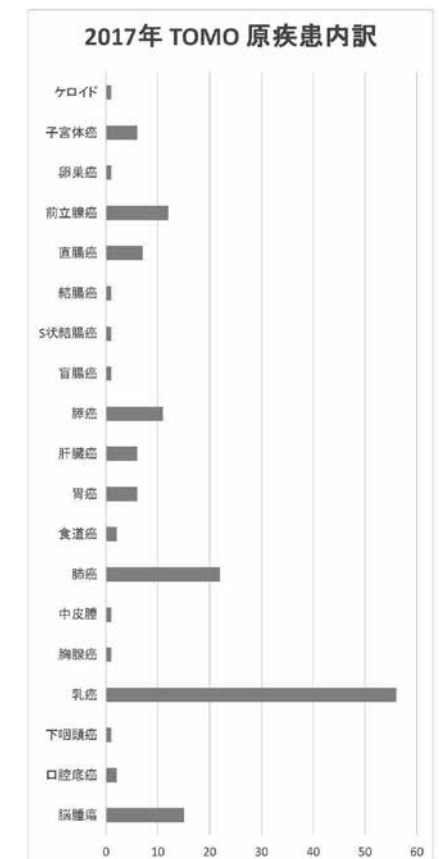
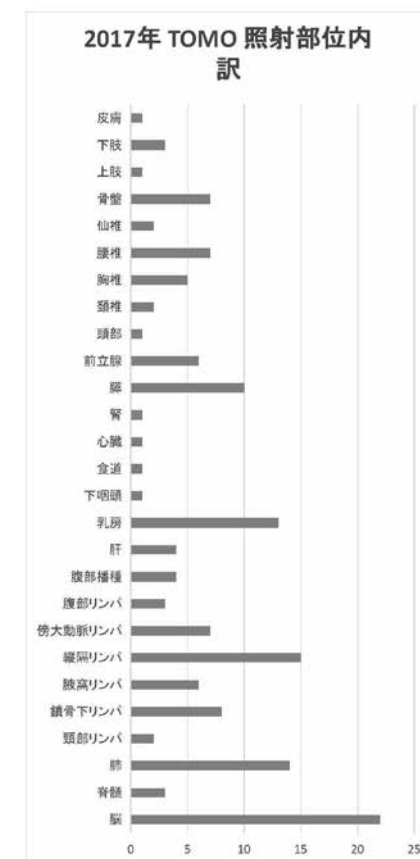
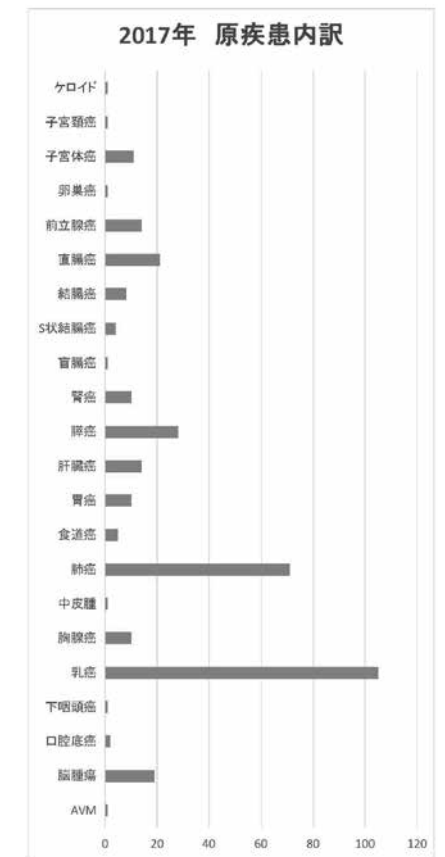
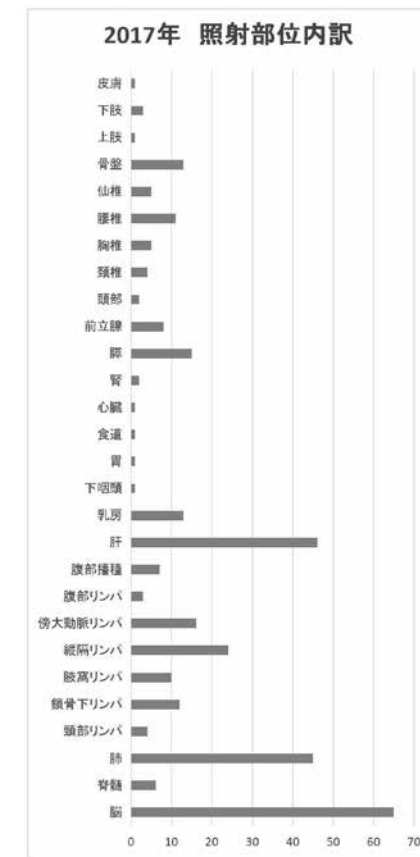
- ・大切な正常組織とその機能を温存します
 - ・初発・再発/単発・多発/原発・転移を問わず、すべてに対し根治的あるいは局所制御的な治療を視野に入れて取り組んでいます
 - ・苦痛と不安のない医療の機会をすべての人に開放しています
 - ・必要とされる医療情報を広く提供し、最先端の情報処理技術を駆使し高速で緊密な連携を行っています
- 最先端の照射技術と生物学的理論の上でがんの再発やその予防の指針を提供し、患者様に寄り添い、望みを導き叶えていきたいと思ひます。

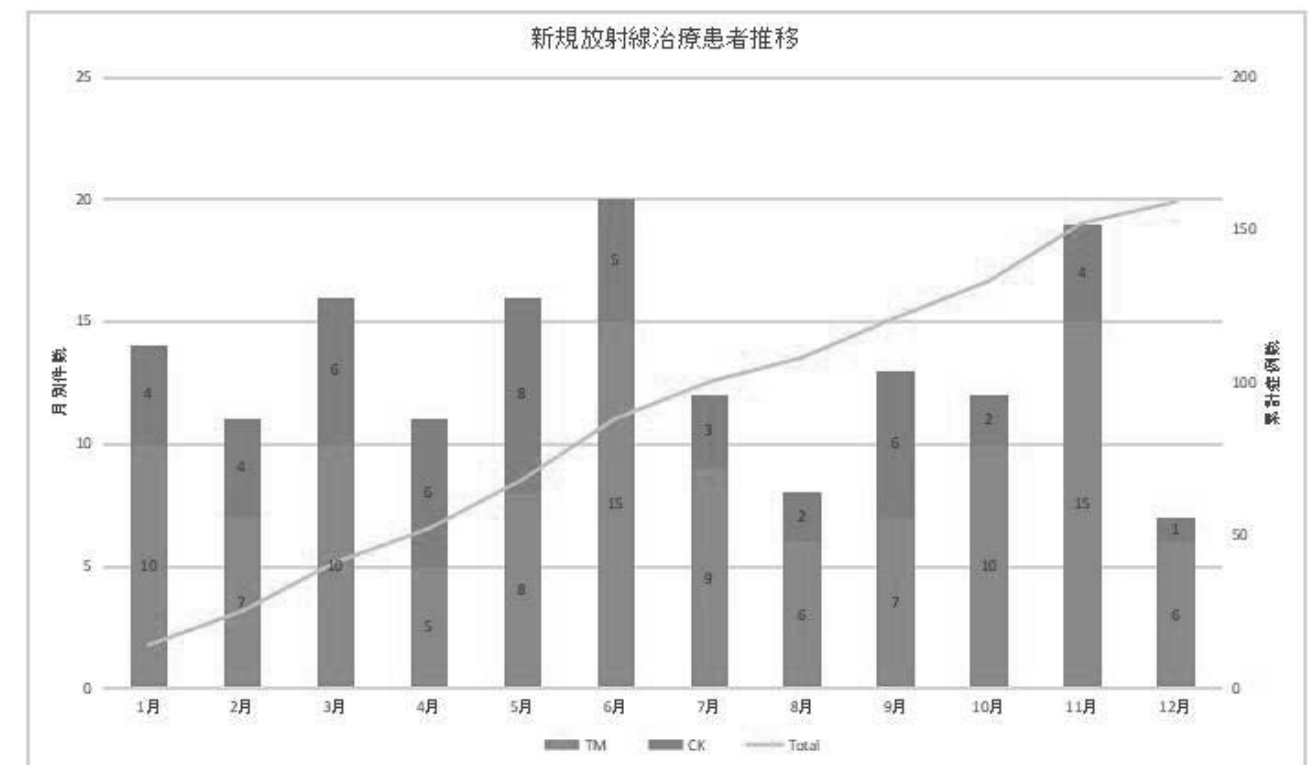
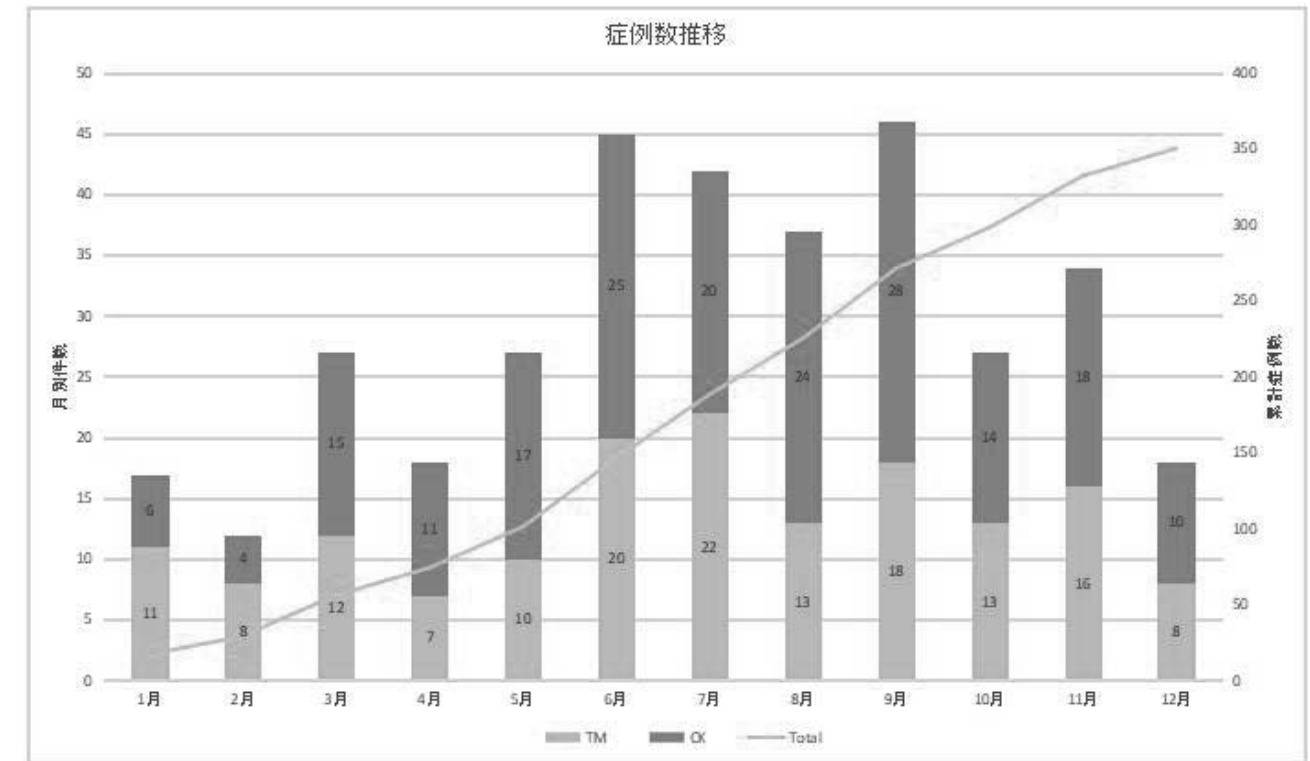
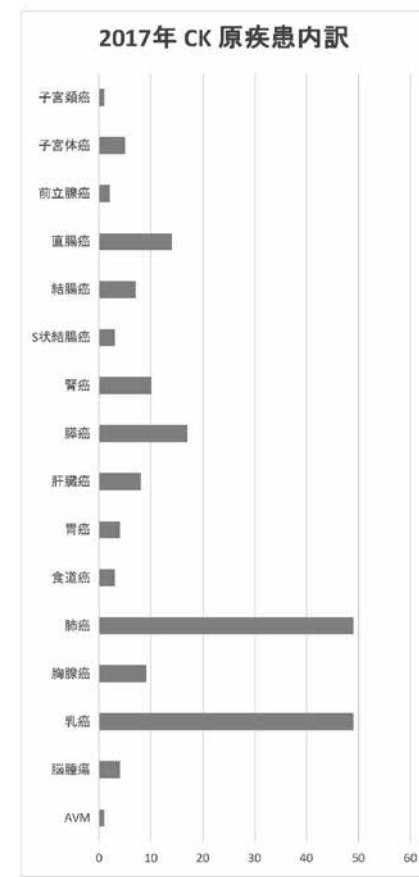
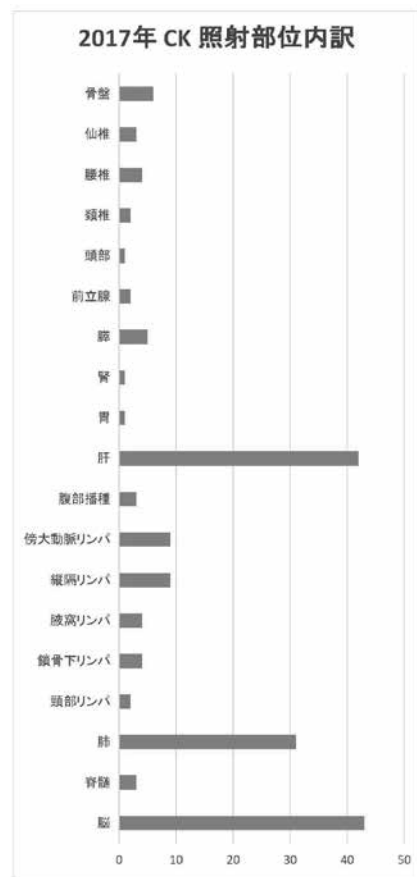
II 診療内容

3つの高精度・高機能な放射線治療機器：陽子線治療装置（プロテウスワン）、トモセラピー、サイバーナイフの3つ全てを有する我が国唯一の医療機関として、偏りのない適切な放射線治療を提供することができます。また、全身の様々な部位で放射線による正常組織の障害を回避するためにIVRの技術を用いた危険臓器回避術を用いることで、私たちはかけがえのない正常組織を温存した放射線治療を提供しています。

これらの放射線治療戦略に、海外機関と連携し、世界で進む急速な選択的分子/免疫標的薬の発展を取り込み、ドラッグラグを乗り越えた最先端の治療の機会を患者様に提供しています。

III 活動報告（症例実績等）





放射線診断科

スタッフ



宮崎 知保子
(診療部長)

山本 和香子
(医長)

I 特色

2016年秋の病院移転に伴い、脳外科や神経内科、整形外科、耳鼻科などの多数の科が新設されました。診断検査機器では2台のMRI装置（静磁場強度 1.5Tと3T）、サイクロトロンを含めたPET CTや乳房専用PET、IVR-CTなどが新たに導入されました。心臓検査ではデュアルソース 256列CTが心臓検査に威力を発揮しております。

特にPET検査は64列MDCTとPETがひとつになった最新PET/CT撮像装置を用いています。F-18 FDG PET/CT検査は代謝の亢進した癌病巣を精度よく検出できます。特に癌においては短時間で全身を一度に検査することが可能であり、再発診断、治療効果判定などきわめて有用な情報をもたらします。早期胃癌を除く悪性腫瘍は保険適用要件となりますので、ぜひご利用ください。またてんかんや虚血性心疾患、心サルコイドーシスにも適応が認められています。保険適用をご確認のうえ、医療連携相談室にご連絡ください。また当院ホームページからダウンロード（医療関係の皆さま／FDG PETの申し込み）してもお申込みいただけます。

PET-CTドックとしてもF-18 FDG PET/CT検査を行っておりますので、こちらは高度健診センターにお申し込みください。

さらに当院では、N-13標識アンモニアを用いた虚血性心疾患の診断検査も施行しておりますので循環器内科にご相談ください。

II 診療内容

放射線診断科は日本医学放射線学会に認定された指導医や核医学専門医、PET認定が常勤医として、画像診断に関わる診療を担当しています。主には各科および地域の医療施設からご紹介いただいた患者様にCT検査、MRI検査、核医学/PET検査を行い、画像診断報告書を作成、画像データと報告書をお返ししています。特に地域の皆様からご紹介いただいた検査では、速やかに検査結果を報告できるよう対応しております。

各科の多様なニーズに対応すべく最新機器をいかに効率的に使用し、治療に結びつく検査を構築するか、被ばく線量を抑えながら高質な画像を迅速に提供できるよう、診断にかかわる20名の放射線技師とともに考え、毎日検査に取り組んでおります。

III 活動報告（症例実績等）

リハビリテーション科

スタッフ



山口 日出志
(診療部長)

I 特色

当院は「がん」、「脳卒中」、「心臓病」の三大疾病と運動器疾患を中心とした高度急性期病院であり、当科ではそれぞれに対応したリハビリテーションが可能です。

一般病棟はもちろん、ICUやSCUにおいてもリハビリテーションを実施し、SAFRA（札幌高機能放射線治療センター）や各診療科とカンファレンスを通じて情報交換を行うことで、チーム医療に基づく包括的サービスの提供を心掛けております。

II 診療内容

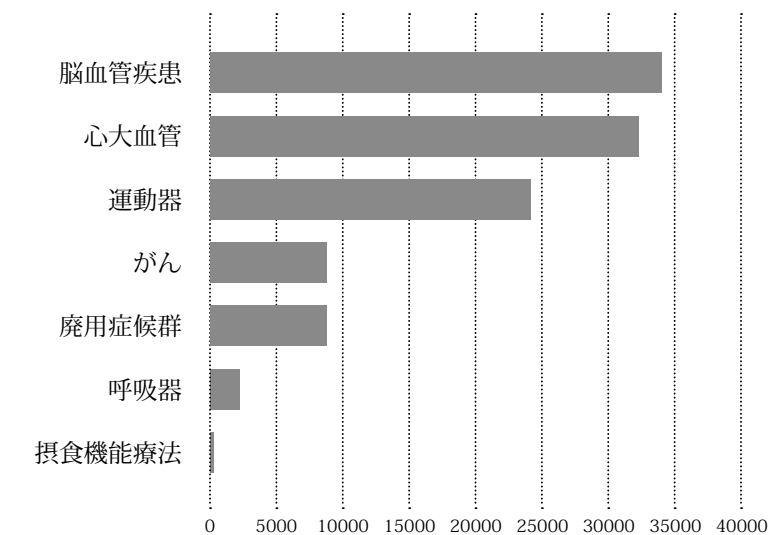
- ・リハビリテーション科医師とセラピストによる回診
- ・リハビリテーションカンファレンス
- ・リハビリテーション場面での診察

III 活動報告（症例実績等）

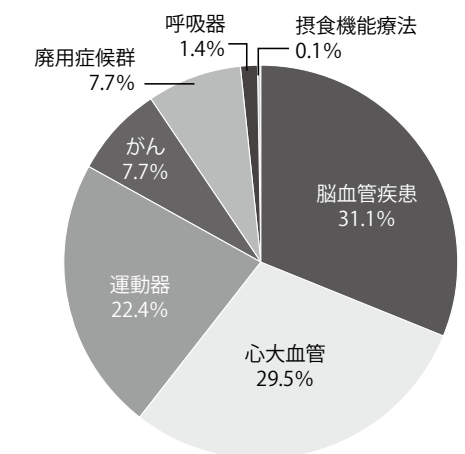
スタッフ構成

医師	1名
理学療法士	28名
作業療法士	4名
言語聴覚士	4名
事務員	1名

実施単位数＜疾患別リハ＞



実施単位割合



乳腺外科

スタッフ



小宮 裕文
(診療部長)

I 特色

乳腺疾患全般にわたって診断と治療を行っています。

- ・2017年9月から外来を開始しました。
- ・検診から二次精査まで担当しています。
- ・癌と診断された場合は、手術を含めた全身療法を行っています。
- ・CVポートの作成を主に上腕部より行い、点滴治療や造影剤検査に利用しています。
- ・1次一期再建施設認定施設を取得し、同時再建も行えます。
- ・センチネルリンパ節生検も病理医が常勤しているので院内で行っています。

II 診療内容

週3回、午後に外来。乳癌に対する化学療法も行っています。

手術日は週1回で上腕部ポート作成、乳癌の手術、生検などを行っています。

III 活動報告（症例実績等）

症例実績

上腕部ポート作成：5例

乳房全摘術：3例

乳房温存手術：0例

化学療法：3例

高度健診センター

スタッフ



尾形 仁子
(主任診療部長・高度健診センター長)

太田 るみ子
(医師)

I 特色

新病院開院に伴い64列PET/CTとMRI(3T)が導入され、最新の設備を用いた精度の高いがんドックや脳ドックをご提供できるようになりました。当センターは日本人間ドック学会の「人間ドック健診機能評価認定施設」の認定を受け、質の高い健診を提供している信頼できる施設であると認められています。また1)当施設の人間ドックに心エコー、血圧脈波が基本項目として盛り込まれていること、2)医師による当日の結果説明及び保健師による当日の保健指導体制が整っており、その実施率が高いこと、なども高い評価を受けています。今後病気の早期発見や予防に対する関心は一層高まる傾向にあり、健診の役割はますます重要となっています。様々なニーズに対応し、信頼いただけるサービスを提供できるよう日々取り組んでいきます。

II 健診内容

- ・人間ドック
- ・生活習慣病予防健診
- ・一般健診
- ・巡回健診
- ・PET/CTドック
- ・レディースPET/CTドック
- ・脳ドック

III 活動報告(症例実績等)

実績状況

【機能】

病院併設型人間ドック・健康診断施設

【事業】

人間ドック(1日・2日)の実施

各種健康診断(生活習慣病予防健診、一般健診、特定健診、特殊健診)の実施

専門ドック(PET/CTドック、脳ドック)の実施

【主な特徴】

人間ドック健診施設機能評価認定施設、全国健康保険協会生活習慣病予防健診実施施設

【健診センタースタッフ状況】

医師2名(センター長含む)、保健師2名、看護師、5名、事務職員10名

【2017年(1～12月)健診実績】

- ・人間ドック；771
- ・生活習慣病予防健診；3,951
- ・一般健診；3,010
- ・巡回健診；2,607
- ・PET/CTドック；145
- ・レディースPET/CTドック；8
- ・脳ドック；108
- ・オプション検査数
 - 乳がん検診；366
 - CT；138
- ・心臓エコー；558

